

令和6年度 施策評価シート

施策の大綱	1. 快適さを支える生活基盤の向上	評価担当者
基本施策	(10) 歴史文化を生かしたまちづくりの推進	市民文化部長 小林 恵太
目指す姿	市民・事業者・行政が一体となって歴史文化を生かしたまちづくりを進めています。	
関連する分野別計画	亀山市歴史的風致維持向上計画(第2期)	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	    
SDGs推進の考察	町並み保存事業において、持続可能な経済成長につながる環境・景観に配慮した歴史文化の保存に取り組むことができた。歴史的風致維持向上計画協議会や鈴鹿閑跡学術調査専門委員会等と連携して事業を進めることで、様々なパートナーシップにより施策の推進を図ることができた。天然記念物ネコギギの飼育・繁殖を行うことで、希少生物の保全につながった。企画展等を開催し、全ての世代の人々に様々な学習機会の提供を図ることができた。

■関連する主な事業

(単位:千円)

施策の方向	事業名	上段: 予算額	実績・成果等
		下段: 決算額	
①	東海街道環境整備事業	59,022 ----- 58,652	国の社会資本整備総合交付金を活用して、東海道へのアクセス道路であると一目でわかるよう、舗装の美化を行い、市民及び東海道街道への来訪者に東海道を中心とした沿道区域の魅力向上が図れた。
②	伝統的建造物群保存修理修景事業	31,718 ----- 31,372	伝統的建造物群保存修理事業を地域住民の協力を得て事業を適切に完了し、修理修景事業完了率が65.3%まで上がった。また、設計士等で構成されるNPO法人亀山文化資産研究会と連携した工事現場の公開を計画どおり実施し、事業への理解を深めた。
②	関宿伝建選定40周年記念事業	2,689 ----- 2,560	当事業を実施することにより、保存地区の住民や関宿に携わる様々な担い手の機運を高め、全国の重伝建地区へも情報発信を行うことが出来た。また、次世代の担い手となる小学生には、関宿のまちなみ保存についてワークショップ形式で学習することにより、関宿の保存継承を推進させた。
③	鈴鹿閑跡学術調査事業	6,155 ----- 5,365	学術調査専門委員会の指導・助言の下、地形測量を行い赤色立体図を作成し、今後の調査・研究の方向性の整理を行った。また、地元住民に対し出前講座を実施し、普及啓発を行った。
④	まちの記録編さん事業	4,828 ----- 132	まちの記録編さんのための風景等の写真の委託撮影(空中撮影、地上撮影)を行った。写真の画像データ等、市の移り変わっていく姿を記録する歴史資料として活用を図る。
①	歴史街道遺産活用事業	1,501 ----- 1,386	伊勢亀山城パンフレット及び関の山車会館のリーフレットの増刷を行い、公共施設等に配架し来場者に広く配布した。また、川俣神社社叢等に説明看板等を設置し、文化財の周知を行うことができた。
②	一般事業(町並み保存費)	1,707 ----- 1,393	全国伝統的建造物群保存地区協議会を通じて要望活動を行うとともに、東海道関宿まちなみ保存会においては、当協議会総会へ初めて参加することにより、全国の保存団体等と交流を深めた。また、関宿案内ボランティアとも連携しながら、来訪者満足度を高め、関宿の保存と活用を推進した。
③	指定文化財維持管理費	12,867 ----- 12,313	市所有文化財等の経常的維持管理や文化財保存伝承活動補助、文化財保護事業に対する補助金の交付(17件)を適切に行い、文化財等の保護を図ることが出来た。
③	一般遺跡調査事業	8,677 ----- 7,878	発掘調査や試掘調査を行うとともに、市が実施した発掘調査や試掘調査等によって出土した遺物等の整理を行い、適切に管理することにより文化財等の保護を図ることができた。
③	希少水生生物保護増殖事業	2,734 ----- 2,703	鈴鹿川水系におけるネコギギの生息確認調査や河川環境調査等を実施し、生息の可能性がある範囲の経年変化を記録した。また、さらに詳細な生息状況を明らかにするため、新たに環境DNA調査を実施した。そして、ネコギギの稚魚を放流(583個体)することにより、保護増殖へつなげることができた。
④	企画展開催費	1,898 ----- 1,730	博物館に収蔵している実物資料を活用した展示では、市内外から6,228人の観覧者があり、地域の歴史的な出来事や収蔵資料を伝え、歴史文化を学ぶ機会を提供できた。

太字: 主要事業

■成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	街道沿道における文化財公開施設見学者数	人	24,476	R2	36,283	37,797	46,825	30,000
2	関宿重要伝統的建造物群保存地区内の街道に面した建造物の修理修景事業の完了率	%	59.0	R2	62.2	63.0	65.3	66.0
3	国・県・市の指定等を受ける文化財の数	件	136	R2	136	136	136	138
4	史資料を活用し学校や地域の歴史学習を実施した回数	回	—	—	102	136	81	120
5								
6								
7								
8								

■市民アンケート調査

項目	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 文化財や歴史的なまちなみが保存整備されている	重要度	0.83	0.92	東海道とその沿道に特色ある歴史文化遺産が存在しており、両項目とも重要度は比較的高くなっている。地域住民の協力のもと、東海道街道環境整備事業や伝統的建造物群保存修理修景事業などの歴史的風致の維持向上に向けた取り組みが順調に進捗していることから、一定の評価を得ていると推察される。
	満足度	0.21	0.34	
2 歴史や文化をいかしたまちづくりが行われている	重要度	0.71	0.82	
	満足度	▲0.15	▲0.03	
3	重要度			
	満足度			
4	重要度			
	満足度			

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 東海道を基軸とした歴史的風致の維持向上	関宿周辺道路の舗装の美装化工事を実施した。今後も街道の環境整備や文化財の保護に取り組み、東海道を中心とした街道の連続性や宿場間の一体感の確保に努める。
② 関宿重要伝統的建造物群保存地区の保護の推進	伝統的建造物等の修理修景や活用を進めるとともに、消防との連携により地域と防災訓練を開催した。今後も地域の理解を得て伝統的建造物等の保存と活用を進めていく。
③ 鈴鹿関跡等の文化財の保存と活用	鈴鹿関跡の学術調査研究を進めるとともに、鈴鹿高校との連携によりネコギギの生息調査と保護増殖に努めた。今後も更なる文化財の保存と活用を進めていく。
④ 歴史資料の公開・活用による地域や学校との連携	歴史資料のデジタル化を推進しホームページでの公開活用を図るとともに、企画展示や地域への出前講座、学校との連携等で、歴史資料の公開・活用を行った。適切な収蔵品の管理に努め、歴史や文化を学ぶ機会の提供に取り組んでいく。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

<p>東海道を基軸とした歴史的風致の維持向上については、関宿内道路の舗装の美装化工事を実施するとともに、重点区域内の文化財案内看板を2件(17箇所)設置し、街道の環境整備や文化財の保護に取り組んだ。関宿重要伝統的建造物群保存地区の保護の推進については、地域住民の協力を得て事業を進め、修理事業を10件、修景事業を3件実施し、保存・活用を図り、目標の66%の完了率に向け順調に進めた。また、関宿重伝建選定40周年記念事業の実施により、保存地区の住民や関宿に携わる様々な担い手の機運を高めたほか、次世代の担い手となる小学生にもワークショップ形式による学習の機会を設けたことで、関宿の保存継承を推進した。鈴鹿関跡学術調査事業における文化財の保存と活用については、城山全体の三次元地形測量を行い、地形の特徴を詳細に把握できる赤色立体図を県内で初めて作成し、鈴鹿関跡の追加指定に向け、築地塀の位置等について調査・研究を進めることができた。天然記念物ネコギギは、鈴鹿高校と連携して生息調査と保護増殖を行ったほか、ネコギギの生息を確認するため新たに環境DNA調査を実施した。歴史資料の公開・活用による地域や学校との連携については、歴史博物館においては、企画展や自由研究ひろば等を開催するほか、実物の収蔵資料を元にした授業等で活用・体験ができる「歴博貸出ユニット」の活用や、博物館に収蔵している実物の資料を活用した出前トークや出前授業等で、地域や学校での歴史学習の機会を図った。また、まちの記録編さん事業については、まちの記録となる写真の撮影(空中撮影、地上撮影)等の歴史資料となるデータ収集等は行ったが、より良いものとするために構成を見直すとともに、データの活用を検討する中で内容も再度精査することとした。</p>	<p>B</p> <p>まずは進んだ</p>
--	-------------------------------

今後の展開方針

東海道を基軸とした歴史的風致の維持向上を図るため、街道の環境整備や文化財の保護に取り組むとともに、伝統的建造物群保存地区においては、引き続き住民の協力を得ながら計画的に修理修景事業の進捗を図るとともに、これらを後世に引き継ぐため、令和6年度に実施した関宿重伝建選定40周年記念事業の記念誌を発行する。文化財の保存と活用については、鈴鹿関跡の全容解明に向け、鈴鹿関跡全体の赤色立体図の作成を行うとともに、今後の調査研究の方向性を見据える基礎データの蓄積を図る。また、天然記念物ネコギギの生息調査と保護増殖について、引き続き詳細な生息状況を明らかにするため環境DNA調査を行いながら、関係機関と連携のもとに進める。歴史資料の公開・活用による地域や学校との連携については、今後も企画展示や地域や学校との連携等、様々な機会を通じて歴史や文化を学ぶ機会の提供に努める。